

外国人児童の学習言語習得期における実践指導

—「スイミー」を題材として—

皆川 麻緒 藪下 保子

1. はじめに

1990年代に入り、出入国管理及び難民認定法が改正されたために、日本には多くの外国人が入国した。彼らのほとんどは就労を目的として来日、滞在し、ある程度収入を得て母国に帰るといった傾向であった。それには、母国に仕事がない・母国に送金するほどに稼ぐのが難しい・日本の治安が良いなどの理由が挙げられる。また、以前は単身での場合がほとんどであったが、改正後は家族で来日するケースが多くなっている。そして、滞在期間も以前は短期間が多かったが、日本は暮らしやすいという理由から、最近は滞在が長期化したり、母国に帰ってから再び来日したりといった場合など変化を見せている。そういった場合に出てくるのが、子供の教育問題である。外国人児童生徒は、両親の仕事の都合で来日時期・滞在期間など個々に状況が異なる。また、日本語習得度もそれぞれである。そのため、指導形態は一人ひとりに対応する個別指導を主とし、その指導法を工夫していく必要がある。

日本語指導を行う場合には、初期指導における生活適応指導や生活言語の指導、学習言語の指導の3つがある。来日して間もない児童生徒には、学校生活に慣れるための初期指導の中の生活適応指導や日常生活で使用する生活言語の指導が行われる。そして、学校生活の流れを理解し精神的にも安定してきた児童生徒には、生活言語と並行して学習言語の指導をしていく必要がある。また、指導者は日本で進学する児童生徒に対して、教科学習に重点を置いた指導をする必要に迫られている。

以上のことを踏まえて、外国人児童生徒の現状を以下に示す。

2. 外国人児童生徒の現状

2-1 長野県内における状況

平成15年度現在の文部科学省の統計によると、県内の外国人児童生徒数は全国で11位である。国籍別に見ると、①中国②ブラジル③スペインの順である。最近の傾向としては、③のスペイン国籍と並ぶほどにタイ・フィリピン国籍の児童生徒の増加が見られることである。そして、子供は日本で出生したり日本国籍を取得したりしても、その親が外国籍であるという場合もよく見られる。また、県内では地域によって国籍の別が見られる。北信では中国人児童生徒が、東信や南信ではブラジル人・スペイン人児童生徒数が圧倒的に多く、中信ではその両方が混在している。

長野市内で見ると、平成15年度5月1日現在の長野市教育委員会の統計によれば、中国人児童生徒数が84名で圧倒的に多く、次に韓国が19名、ブラジルが13名、タイが11名、フィリピンが9名と続いており、ほとんどがアジア圏からの来日である。また、国際結婚の形も多く見られ、日本国籍を取得する児童生徒の割合も多くなってきている。それでも、

市内の小中学校に在籍している外国籍の児童生徒数は、13カ国からの154人に上り、この中で日本語指導を必要としている児童生徒は54人である。

全体的に見ると、ここ数年の市内における外国人児童生徒数は横ばい状態であり、一時期の急増していた状態から見ると落ち着いた。しかし、日本へ定住する割合が多くなってきているために、将来日本で進学するというケースが見られ、より多くの学習言語を習得していかなければならない。そのためには、より充実した日本語指導が求められる。そこで、その中心的な役割を担うために、平成16年度より長野市立芹田小学校が日本語指導の推進校となった。そして、4月より当該校でその実践がなされている。主な活動としては、教材開発や書籍収集、そして当該校を会場とした研究授業や日本語指導連絡会などである。その内容としては、研究授業を年2回、連絡会を年3回行う予定でいる。

2-2 芹田小学校の現状

現在、当該校には、外国人児童（日本国籍取得者含む）で日本語指導が必要とされている児童が13名在籍している。詳細については以下の表で示した。★印が付いているのは、日本語教室に通級している児童であり、現在は7名が通級している。そのうち2年のブラジル人児童は、週に1回1時間の通級でポルトガル語の母語指導が行われている。1年生の男子児童のうち2名については、原学級の担任と相談し2学期からの通級を予定している。

学年 国籍	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
中国	3				★2								4
韓国		1		★1	1								3
タイ			★1			★1						★1	3
ブラジル				★1				★1					2
合計	3	1	1	2	3	1	0	1	0	0	1	0	13

児童たちは、主に原学級で国語や算数の授業を行っている時間に通級している。原学級での授業内容や児童の日本語理解の程度によって、通級時間が多い場合には、1日に3～4時間となることもある。しかし、ほとんどの児童は生活言語を獲得できているために、1日に1～2時間程度の通級で、なるべく原学級で仲間と共に授業や活動に参加できるようにしている。先にも述べたが、通級している全ての児童は、来日して10ヶ月以上が経過しており、日本での学校生活にも慣れて日常生活には困っていない。そのために生活言語もほぼ問題はなく、全ての児童に対して教科書を使用した教科学習、つまり学習言語の指導を中心に行っている。

また、性格面を見ても穏やかな児童が多く、落ち着いた学習に取り組んでいる姿勢が見られる。指導形態は、基本的には個別指導で対応している。しかし、日本語の能力が同程度の児童には学習の進度を合わせて、同じ単元を扱っての一斉指導を積極的に取り入れている。

3. 実践指導の概要

ここでは光村の国語教科書二年上に載っている物語教材「スイミー」を取り上げ、芹田小学校日本語教室に在籍する中で、日本語能力が同程度の児童2名の授業の様子について記録する。

3-1 日本語教室の学級経営について

1.でも述べたように、本校の日本語教室に在籍する児童のほとんどが中学、高校への進学を控えている。そのため、特に教科学習（国語）に力を入れている。国語の教科書を使用した授業では、内容読解にあたる大意を掴む学習を大事に考えている。そして、これから原学級で授業を受けていくことを考え、読みを深めて自分の考えを持ち発表することや、表現方法の工夫などに気付け力をつけていきたいと考えている。

3-2 児童の実態

略 称		K.T (男児)	C.U (女児)
国籍・母語		中国・中国語（上海語）	韓国・韓国語とフランス語
学 年		3 学年	2 学年
来 日 年 月		H15.7（中国の小学校に2 学年まで在籍）	H13.12（保育園年中）
通級時間		原学級で国語の時間（週 5 時間）	原学級で国語と算数の時間（週 9 時間）
日 本 語 の 習 得 状 況	生 活 面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常会話には不自由しないが、細かいニュアンスは理解できない。 ・ 全体指導では、担当が簡単な言葉で言い換えて個別に指導している。 ・ 助詞を抜いて話す傾向がある。 ・ 誰にでも積極的に話し掛けるので、口語はどんどん覚えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常会話には不自由しないが、教師の指導を取り違えて解釈することもある。 ・ 周りの様子を見たりして皆と同じように動いている。 ・ 友人への語り掛けや質問はできる（自分の知っている単語で済むため）。相手の話がわからないと、話題を変えごまかしてしまう。
	学 習 面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『ひろこさんのたのしいにほんご1』38課終了程度（簡単な形容詞の使用） ・ 今年度4月より光村の国語教科書二年上を学習。「たんぼのちえ」の単元を終了。（C.U は原級の進度に合わせて進めている） ・ 漢字は1年生の漢字終了程度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字の学習は苦手である。意味を認識できないことが原因ではないかと推察している。 ・ どんな学習にでも興味を持って取り組む意欲があり、作文や音読などにも積極的に取り組んでいる。
	性 格	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活発で人見知りしない。絵が好き。 ・ 短気ですぐに癇癪を起す。友達とのつかみ合いのけんかもしばしば。 ・ 何事も継続することが苦手。好きなことでも面倒な部分があるとすぐにやる気を無くしてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 素直で明るく、楽しいことが大好き。 ・ プライドが高く、わからないことがあると動揺して思考が停止し、理解できていたこともわからなくなってしまう。 ・ 日常生活の些細なことが気になると、日に何度も担任に訴えてくる。

3-3 授業記録

「たんぼのちえ」は一緒に学習した2人だが、「お手がみこうかん会」の単元はC.Uは原学級で学習することにし、K.Tが1人で「スイミー」の学習を始めた。

授業日		K.T
6.8	様	範読を真剣に聞いている。後の質問にも正確に答えることができた。大意は理解していた。初対面の方との学習なので緊張感を持って取り組むことができた。
	支	信州大学の学生による範読。範読後、内容についていくつか質問をしてもらう。
6.9 15分	様	音読。「こわかった」→大きな魚がまたくるかもしれないので。「さみしかった」→独りぼっちになってしまったので。「とても かなしかった」→仲間が食べられてしまったので。ときちんと理解していた。海の生き物の名前には興味なし。
	支	絵の好きなK.Tが一番好きな場面の絵を描き、そこに好きな理由を添えようと提案。K.Tも意欲を見せ、掃りがけに「明日はいつスイミーの絵を描くの。」と聞きに来る。
6.10 15分	様	下絵(模造紙)。教科書を参考にしながら集中して岩やこんぶなど海の様子を描いた。
	支	話し掛けず、黙って見守った。
6.12	様	下絵。途中で飽きる。一番好きな場面は「そうだ。みんないっしょにおよぐんだ。海でいちばん大きな魚のふりをして。」理由は「ゆうきをも(っ)てたかかってる。」と記入。
	支	前半、集中して取り組めたことを褒めた。後半、下絵の手伝い。
6.14 2時間	様	1時間は集中して色塗り。2時間目は色を混ぜる方に興味に移るが、なんとか仕上げる。
	支	励ましながら一緒に仕上げた。字の部分は自分できちんと書くように指導。
6.16	様	「おそろしい」「ミサイル」など、わからない単語の意味を取りながら読んでいく。
	支	わからない単語はゼスチャーや簡単な例文を作って説明。
6.18	様	図書館の図鑑で海の生き物を探す。図鑑の写真と絵本の絵とを比べながら見ていく。最初は興味を示すが、探している生き物が見つけれず嫌になってしまう。
	支	他の絵本に興味に移った時点で他の児童にも協力してもらい、意識をつなげた。

※様—様子、支—支援を表す。

C.Uは6月21日から原学級で「スイミー」を学習した。しかし、7月2日に皆川がC.Uに内容を聞いたところ、きちんと理解していないことが明らかになった。そこで、学級担任と相談し、K.Tと一緒に日本語教室で学習を進めることにした。

以下に理解できていなかった場面を示す。

①まぐろが赤い魚たちを飲み込んでしまい、スイミーだけが逃げるのであった場面。

C.U→「みんなはどこかに隠れてしまった。」

②「こわかった。さびしかった。とてもかなしかった。」スイミーが一匹で海をさまよう場面。

C.U→「スイミーは隠れているみんなを探している。」

③大きな魚のふりをして大きな魚を追い出す場面。

C.U→「また仲間を見つけることができて、大きな魚と追いかけて遊んでいる。」

これらの回答から、音読はできて理解できていない言葉が多いため、内容については挿絵か

ら判断している部分が多いのではないかと感じた。

重点的に指導する点

- ①動詞、形容詞の意味を正しく理解させて、大意をきちんと掴めるようにする。
- ②比喩表現と固有名詞が頻出する部分も読み取り、海の中の楽しさを想像できるようにする。

手だて

- ①ペープサートを使い、劇化→大意を掴む。動詞の意味を体感することで理解させる。
- ②『スイミー』の絵本と図鑑との対比→中間部分の読み取りを深める。形容詞の意味を理解させる（絵本には海の生き物が1ページずつ大きく描かれている）。

留意点

- ①母語で習得していない単語の学習
 - 繰り返し絵や写真を見せたり動作化したりすることで、理解できるようにする。
- ②学習を終えかけている K.T への学習への意識付け
 - 日本語教室の他の児童にスイミーを紹介するという目的を持たせ、意識を持続させる。

授業

※太字下線部は、特に重点的に指導する点に関連する部分である。

授業日	K.T			C.U		
	活動	支援	様子	活動	支援	様子
7.6	場面を決め、ペープサートの準備開始。	性格に配慮し、先頭に立ち進めさせる。	教えるという意識を持ち、やる気が出た。	範読を聞きながら意味のわからない言葉に線を引く。	理解が不十分だと判断した単語は、こちらから指摘する。	すらすらと音読している単語の中にも理解できていない単語が多かった。
7.7				単元テスト。授業時間の半分を過ぎ、「よくわからない。」と日本語教室に来る。	内容を考えながら問題を解くように質問を工夫した。	今までの経験で回答は抜き書きすればいいと覚えていて、半分程はできているが内容はわかっていない。
7.8				音読の後、わからない言葉の、意味と文例を示す。	具体物で認知できるように『ことば絵辞典』『単語カード』を使用した。	「くらす」の意味がまだ理解できない。
7.9 (7.12 K.T)	ペープサートの続き。スイミー・赤い魚たちがつくった大きな魚・まぐろの3つを作る。	「おそろしい」表情を上手に描けたことを褒める。ペープサートの作り方。	作成したペープサートが気に入る、本文を暗唱しながら動かす。	前時の復習。その後「こわかった。さびしかった。とてもかなしかった。」の部分についてスイミーの気持ちを考えた。	こわい・さびしい・かなしいの区別がでるように表情の絵と実生活に即した例文を提示。	それぞれの表情の絵を指した。スイミーの気持ちを理解することができた。

	活動	支援	様子
7.13	ペープサートを動かす役とナレーターとを1ページずつ交互に分担する。発表に向け、懸命に練習に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・発音やイントネーションの違い部分については、意味が理解できていないこともあるので再度確認し、その単語のみ何度か一緒に発音の練習。 ・色々な海の生き物に出会う場面では、図鑑や絵本で生き物を提示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・C.Uは赤い魚たちが逃げてしまったように動かしたり、大きな魚のふりをしたスイミーたちと大きな魚が追いかっこをしているようにペープサートを動かした。K.Tがその都度C.Uの動きを正しく直した。実際にペープサートを動かすことで、C.Uも内容を正確に把握できたようである。 ・海の生き物たちに出会う場面では、ようやくK.Tから水中ブルトナー・ドロップ・こんぶやわかめについて質問が出てきた。
7.15	真剣に発表。途中でK.Tがナレーションを間違え、本人の希望でやり直す。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を見る児童には事前によかった点を言えるように指示。 ・ナレーションに感情がこもっていたこと、二人で最後まで発表できたことの二点を褒める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やり直すとK.Tの集中力が途切れてしまう。C.UがK.Tを支え、最後まで発表できた。 ・「大きな声で読めていた。」「日本語が上手だった。」「面白かった。」「K.Tももう少し最後までがんばれるとよかった。」等の感想。 ・何度も練習し、話の内容を理解したことで音読は上手になった。

7月13日のK.Tの質問から、図鑑を見て絵本に載っている絵と対比させるだけでは理解不足であることがわかった。また、ここでようやくK.Tが細部に目を向けたことを大事に捉え、きちんと指導したいと考えた。

手だて

- ・本文を抜いた絵本の挿絵を話の順番に並べる。

留意点

- ・「ドロップ」や「にじ色」の色の感じや美しさが理解できるようにカラーコピーを使用する。

授業日	K.T			C.U		
	活動	支援	様子	活動	支援	様子
7.16	海の生き物の場面の挿絵を話の順に並べ替える。ドロップの絵を見る。	『ことば絵辞典』でドロップの絵を見せて考えさせた。	「 <u>くらい海のそこ</u> と「 <u>こんぶわかめの林</u> 」を逆にした <u>が、ドロップの意味がわかると並べ直す</u> 。「かおを～ながい。」という文に興味を持つ。	スイミーを音読し、テスト形式の問題に取り組んだ。その後レオ・レオニの絵本の読み聞かせ。	レオ・レオニの絵本を8種類ほど用意し、一冊ずつ選択。『コーネリアス』『せかいのおおきなうち』の読み聞かせ。	テストでは形容詞に関する問題も助言すると正解した。読み聞かせは質問をしながら楽しく聞くことができた。

7.20	音読。テスト形式の問題を解く。『せかいちおきなおうち』の読み聞かせ。	達成感を持たせるため、以前と同様の問題プリントを用意。	以前はできなかった形容詞の問題も正解。読み聞かせは真剣に聞くことができた。	絵の並べ替え。ペラングに出て実際の「木、林、森」と、字形を照らし合わせながら単語の説明。再度並べ替え。	「林」の意味指導。混乱している様子を見て学習内容を切り替えた。	「くらい海的那こ」と「こんぶやわかめの林」「やしの木みたいないそぎんちゃく」を並べられず動揺、「林」の説明中も上の空。再度の並べ替えでは、ばらばらに並べる。
7.22				「林」の意味を考える。海の生き物に出会う場面を音読後、再度並べ替え。並べ替えた絵に本文を書き加える学習。	「ドロップ」を説明。並べ方は教師が提示。	「林」の意味は把握。「くらい海的那こ」と「こんぶやわかめの林」の他は正しく並べる。本文を書き加える学習も意欲を見せた。

4. 考察、テキストの作成へ

授業での児童の様子から有効な指導方法について考察を行ない、それを基に作成するテキストの内容について考える。

4-1 考察

この授業を通して、「スイミー」の学習を進める上で、動詞の認知が物語の大意を掴むポイントとなっているのではないかと考えた。最初の範読で大意を掴んでいた K.T は、二回目の指導で単語の意味を確認した時、動詞の多くを自分の知っている簡単な単語に置き換えることができた。しかし C.U は単語の置き換えができず、三択で示しても単語を選択できなかった。そして、挿絵から自分なりに物語を推測していた。単語の理解度についての表を以下に示す。

単語の認知

ページ	K.Tのみが理解または、推察できた単語や文	C.Uのみが理解できた単語や文	二人とも理解できていなかった単語や文
44~45	くらしていた・だれよりも・きょうだいたち		広い・からす貝
46	つつこんできた・一口で1びきのこらずのみこんだ		おそろしい・ミサイル・まぐる
48~49	林・元気をとりもどした	ゼリー・わかめ	海的那こ・にじ色・くらげ・水中・ブルドーザー・いせえび・ドロップ・こんぶ・うなぎ・やしの木・いそぎんちゃく
50~51	そっくりの		岩かげ
52~53	さげんだ・おい出した		とつぜん・ふりをして・はなればなれにならないこと・もちばをまもること

その他、感じたことを以下に述べる。

- ①母語でも未習得の動詞を認識させるのに、実際に自分で動かしたり、動きを見ることができたりするペープサートは大変有効な手だてである。
- ②未習得の名詞の指導においては、挿絵や実物をくり返し提示すると共に教師側がくり返し発音してみせ、その後、児童にも発音させることが大切である。
- ③習得済みの単語であっても、形が変わるとわからなくなってしまう児童もいる。
（「きょうだい」→「きょうだいたち」と付属語が付いたり、動詞が活用したりすると認識できなくなるが多い）
- ④「スイミー」の学習では、物語文に添った挿絵の並べ替えを行なうことは、児童にとって比喩表現理解の助けになる。また、指導者にとっては児童の理解度を測るのに有効である。
- ⑤大意を掴んでからでないと細部に目を向けにくいので、まずは動詞の意味の指導を行ない、大まかな内容の把握をさせることが大切である。
- ⑥生活言語を同程度習得できている児童であっても、文章を読むということになると大きな個人差がある。
- ⑦多少日本語能力に差があっても、同じ単元を仲間と共に学習することで、意欲も増し互いに支えあって学習を進めることができる。

また、反省点は以下の通りである。

- ①大意を掴んだ児童に比喩表現の多い場面を細かく指導する必要があったか。
- ②K.Tは大意を掴んでいるにもかかわらず、重ねて指導する形になってしまった。
- ③未習の単語を系統的に指導するテキストの必要性を、日ごろ感じていたにもかかわらず、前もって外国籍児童用のテキストを作成しなかった。

4-2 テキストの作成へ向けて

日本語教室を担当して前任校と合わせると4年目になるが、やはり国語の教科書を使用しての学習には単語や文型を補うテキストの作成が急務であると実感した。日本人と同じように日常生活を送っている外国人児童であっても、意外に習得していない単語が多いからである。「スイミー」の学習で学んだことを生かし、今後は特に以下の点に力をいれて指導を行なっていきたい。

- ・物語や文章を把握する上で大切であると思われる動詞を絞り込み、その理解と定着が徹底されるような単語表の作成。
- ・母語で未習得の単語を認知させるための絵や写真をふんだんに取り入れる。
- ・動詞を使った文型練習を行う項目の作成。
- ・テキストの作成、使用と並行して、劇化、ペープサートなどさまざまな活動を取り入れる。

5. おわりに

テキストの作成を始めて4年目であるが、ますますテキスト作成の難しさを感じている。前任校である上田市立神科小学校で3年、芹田小学校で今年度4月から指導を行ってきた。そして、2点の大きな違いに着目した。1点目には、出身国の文化に由来する児童の特性の違いが挙げられる。今まで接してきた限りでは、南米の児童は日常会話の習得は得意とする児童が多い傾向に

ある。しかし、アジア圏の児童はどちらかという書くことを得意とする児童が多い。2点目には、1でも述べたような来日目的の違いが挙げられる。神科小学校に在籍していたのは両親の就労が目的の南米の児童が主であり、いつ帰国するかわからないという状況の中で、文化的に大きな違いのある日本での生活に馴染むことを一番の目的として指導を行なってきた。しかし、芹田小学校に在籍する児童は、そのほとんどが日本に定住する予定であり、進学が決まっているので、初期の段階から教科学習を見据えた指導を行なっていくことが大切である。

このような違いがあるにせよ、外国人児童生徒は、日本の小学校に編入して日本人と同じように授業を受け、学校生活を送っていかなければならない。このように、来日時期、文化、日本語能力や来日の目的が違う児童に共通点を見出し、どんな児童でも使用できるテキストの作成を行なうことは非常に難しいことである。しかし、できるだけ多くの外国人児童が使用できるテキストを作ることは非常に重要な課題であると考ええる。

【附記】

1～2は藪下が担当した。藪下は今年度4月より、芹田小学校日本語教室で調査研究を行なっている。3～5は皆川が担当した。なお、皆川は今年度4月より、芹田小学校日本語教室担当となっている。

【参考文献】

- 光村図書(2002)『こくご 二年(上) たんぼぼ』より 「スイミー」
好学社(1969)『スイミー ちいさな かしこい さかなの はなし』
長野県教育委員会 (2004)『日本語指導が必要な外国人児童・生徒調査』
長野市教育委員会(2004)『平成16年度 第1回外国籍等の児童生徒調査について』
文部科学省 (2003)『日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入れ状況等に関する調査』

(みながわ まお 長野市立芹田小学校日本語教室担当)
(やぶした やすこ 信州大学大学院教育学研究科)